

# ケニア稲作研究で何がわかったのか?

日時

2018. **3.3** (土)  
13:00 ▶ 17:40 (受付開始 12:30)

会場

名古屋大学農学部第12講義室  
農学部B館3階 (名古屋市千種区不老町)

## プログラム

(使用言語: 日本語および英語)

### ● 基調講演: 『サブサハラ・アフリカにおける稲作の緑の革命: 進展と課題』

**櫻井 武司** (東京大学大学院農学生命科学研究科・教授)

### ● 共同研究の成果:

**ジョン・キマニ** (ケニア農畜産業研究機構ムエア支所・支所長)

「ケニアにおける共同研究と社会実装への展開」

**キャロライン・クンドゥ** (ケニア農畜産業研究機構カメガ支所・研究員 / 鳥取大学大学院連合農学研究科・博士課程後期課程 (島根大学所属))

「ケニアの水田土壌の現状と課題」

**エミリー・ギチュヒ** (ケニア農畜産業研究機構ムエア支所・研究員)

「バスマティの収量向上に向けた  
ロンギスタミナータ染色体断片置換系統群の開発と利用」

**ダニエル・メンゲ** (名古屋大学農学国際教育協力研究センター・研究機関研究員)

「乾燥ストレス条件下における陸稲の生産性向上戦略:  
根系形質に関する遺伝的変異の利用と施肥管理の改善」

**コーネリアス・ワイナイナ** (ジョモケニヤッタ農工大学・講師)

「テーラーメイド育種プログラムによる冷害回避を通じた生産安定化」

### ● これまでの成果とnext step:

**土井 一行** (名古屋大学大学院生命農学研究科・准教授)

「有用QTLを導入したケニア向け育種素材の開発および  
ICTツール利用による形質測定効率化」

**菊田 真由実** (名古屋大学アジア共創教育研究機構・特任助教)

「改良品種の導入と肥培管理技術の改善によるイネ生産性向上の可能性」

**桂 圭佑** (東京農工大学大学院農学研究科・准教授)

「生育収量予測モデルの応用とアフリカにおける多収稲作の可能性」

### ● 交流会 18:00~20:00 (会費: 有料)

参加  
申込

**参加費無料** (申込締切: 2018年2月27日(火))

以下の内容を明記の上、e-MailまたはFaxにて事前にお申し込みください。(当日受付もあります。)

**氏名(フリガナ)、所属名(機関名または会社名)、連絡先(電話番号、e-Mail アドレス)、交流会参加可否**

【参加申込・お問い合わせ】

名古屋大学農学国際教育協力研究センター 〒464-8601 名古屋市千種区不老町

Tel: 052-789-4225, Fax: 052-789-4222, e-Mail: iccae@agr.nagoya-u.ac.jp

専用  
サイト

<https://iccae.agr.nagoya-u.ac.jp/jpn/events/forum/201717of.html>

